

令和4年度 第1回美術館協議会

1 日 時 令和4年6月28日（火）15:00～16:30

2 開催場所 みき歴史資料館 3階講座室

3 議 題

(1) 報告事項

ア 令和3年度 入館者状況（会議資料1）

イ 令和4年度 美術館事業の現況

(2) 協議事項

ア 令和4年度 後期展示事業活動計画案（会議資料2）

イ 令和5年度 展示事業計画案について（会議資料3）

ウ その他

4 出席者

(1) 委員 山下泰生会長、石田満美副会長、生田淳仁

公森 仁、神戸滝子、高谷美貴子、米村 環

(2) 事務局 本岡教育総務部長、金井文化・スポーツ課長兼館長

西馬副課長、人見美術館専門員、蔭木事務職員

和田事務職員

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

7 会議内容

開会 会長開会の挨拶

－事務局報告－(1)ア令和3年度 入館者状況

会長：それでは、最初に報告事項、令和3年度入館者状況を事務局の方からご報告お願いいたします。

事務局：昨年度はコロナに振り回された1年であった。4月当初は柳本富子展が、緊急事態宣言で前年度延期になっており、今年度、開催出来たが途中で中止になった展覧会だった。本来なら次は美術協会の日本画・書部会展を予定し

ていたが、緊急事態宣言で開催することができなかった。木彫フォークアートおおや in 三木展はとても好評だった。7月に入り、小松原ケンスケ展を開催し、8月はアートティーン公募展の第1回目を開催した。今年度は学校の教師と繋がっていく中で昨年度より参加者が増えてくるのではないかと思う。9月は雲丹亀利彦展の予定だったが、緊急事態宣言で中止となった。

10月、白井翔平彫刻展を開催した。吉川小学校の児童との鑑賞会を作家とのリモートで行った。11月は水田陽子展を開催した。また、3年度からトライやるを実施し、日本画体験や、作家とリモートで交流をすることができた。12月はしぶがき展を開催した。たくさんの地元の方に来ていただいた。1月は織二人展を開催した。どのように展示すれば、織を効果的に見せることができるか、また、織の良さを分かってもらえるように展示の工夫もすることができた。

2月は高田雄平展を開催した。エコロジカルアーティストで新聞などの廃材を使って作品を作っている作家で、吉川小の児童とのリモート美術館という形で交流し、ワークショップも行った。作家とコラボレーションして完成した作品は美術館に展示し、また展示後はウクライナのキーウにて映像という形で作品を紹介することができた。3月はきらきら書道展を開催し、1000人近い多くの方に来館していただき、展覧会会場での書道体験も好評であった。

－事務局報告－(1)令和4年度 美術館事業の現況

事務局：今年度は4月から小林隆之展で始まり、5月は三木市美術協会の日本画と書部会展を開催することができた。久しぶりの部会展の開催に盛り上がった展覧会であった。よねざわともみ展では紐仕掛け人形の魅力を伝えられた展覧会であった。地元小学生児童が来館し、見学とワークショップを行った。観光振興課との連携イベントの「時の記念日展」も明石市立天文科学館の協力もあり好評であった。

よねざわともみ展は1000人を超える来館者があり、来館者の年齢層も幅広く、今後につながる展覧会だったと思う。

委員：美術館のホームページを、毎日のように更新し、様子が良く分かるので、楽しみである。作家との交流やワークショップも素晴らしい取り組みだと思う。美術館はそういう楽しい体験ができる場所ということで、美術館に対するイメージが大変良くなると思う。

－事務局報告－（２）ア令和４年度 後期展示事業活動計画案

パワーポイントで映像を見ながら美術館の活動を解説

- 各展覧会の様子
- 吉川小学校、放課後教育事業の芸術鑑賞やワークショップ様子の様子等
- 他の施設の取り組みの紹介

事務局：現在堀光美術館では、沖縄在住の作家が中心となって活動している“ゆがふ舎展”を開催中。この後第２回アートティーン公募展、木彫と流木オブジェの福本孝昭展と続く。今年度の一番大きな展覧会となる上田桑鳩特別企画展の開催を予定している。美術館開館４０周年記念特別企画「郷土の書家上田桑鳩展～上田家寄贈作品から～」展ということで、前期後期と予定している。

桑鳩展後はグループしぶがき展があり、年が明けると、木版と洋画を楽しむ二人展を開催する。木版作家の方と洋画の二人展という形である。木版画作家の森口さんはワークショップも計画している。２月はチョークアート作家のいそのゆか展を開催し、地元小学校との交流を計画中である。今年度最後は阪神間で猫をペンで描く作家として活躍している山田貴裕展を開催する。

後は、それぞれの展覧会に合わせてホームページの更新や、アート・ティーン開催時に２階の展示室で過去に堀光美術館で開催した企画展のポスターの展示を考えている。ポスターを通じて４０年の堀光美術館を振り返りたいと思う。また、今年はアート・ティーン受賞者のラジオ出演も計画している。

委員：７月２日に開館４０周年の日になるが、セレモニーなどはあるのか。

事務局：セレモニーはない。専門員とも相談の結果、先ほどのポスター展でこれまでの展示を振り返っていただこうと考えている。

委員：三木市は「日本で一番桑鳩さんの作品が多い」というPRの仕方でもできるのではないか。桑鳩さんの作品を他の美術館や博物館から貸してほしいという依頼はあるのか。

事務局：東京の桑鳩さんが立ち上げた奎星会の設立記念展の際に借用依頼があった。今後も様々な場所への貸出は考えている。

委員：時の記念日のイベントは面白かった。今後、お雛さま展のイベントやネコの日に関連したこと、またパネルなどを利用したフォトスポットの案もいと思う。

委員：たくさん企画があって、美術館をものすごく身近に感じている。

－事務局報告－（２）令和５年度 展示事業活動計画について

事務局：４月は洋画の松原政祐展、その後三木市美術協会展の写真と彫塑工芸部会展がある。５月は池内悦子展を考えている。墨と和紙による表現をされる作家である。次に陶芸の古川尊展、線象嵌という技法で作る陶芸の作品である。

委員：上田桑鳩展だが、桑鳩展の期間が長いのではないか。

事務局：６週間というのはまた若干の調整させていただくかもしれないが、概ねこの時期に第３弾をさせていただく予定である。

事務局：また、令和６年度は、前年度に確認済みだが、伊丹三樹彦展と木版画展も考えている。木版画の作家からは代表を決めていただいて、スムーズにいくように計画していきたいと考えている。

会長：６年度のことをまた、議論する機会もあると思うが、今年度３月のスタンプラリーの件や、来年度の計画に関しましては、まだ余裕がありますので、ご意見があればお願いしたい。これで本年度第１回目の美術館協議会を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

閉会 会長閉会の挨拶